

学校名	市立札幌啓北商業高等学校
-----	--------------

2019年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

マネジメント能力を身に付けた職業人の育成 ～ 札幌の未来を担う人材の育成

2. 研究の目的

本研究は、札幌市立で唯一の商業高校である本校を核として、地元札幌を中心とした企業、外部教育機関、行政、地域社会が有機的に結びつくことで、人的資源、物的資源、財務的資源及び情動的資源を適切に活用する「マネジメント能力を身に付けた職業人の育成」を目標とする教育プログラムの開発を目的としている。

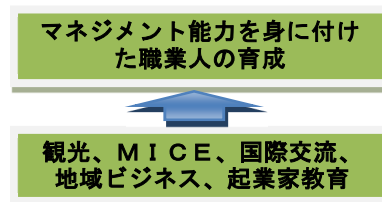


図1 教育プログラム開発の目的

具体的には、札幌という地域性を考慮して、『観光』、『MICE』、『国際交流』、『地域ビジネス』及び『起業家教育』の5つの分野（以下、「5つの分野」と略し、その学びを「5つの“知”」という。）に重点を置き、生徒一人一人が、『札幌』という地域社会とつながりながら、互いに協働して、地域やビジネス上の課題を見出し、解決しながら新たな価値を創り出していくことにより、マネジメント能力を育み、社会的・職業的に自立する能力を身に付けることを目指す。

3. 実施期間

契約日から 2020年3月13日まで

※ 最長で当該年度の3月15日（3月15日が行政機関の休日に当たる場合は直前の開庁日）まで

4. 当該年度における実施計画

(1) 育成する人材像

本研究を通じて、人的資源、物的資源、財務的資源及び情動的資源を適切に活用するマネジメント能力を身に付けた職業人を育成する。それによって、社会的・職業的に自立し、札幌の未来を担う人材、即ち、『5つの“知”を紡ぎ、札幌の未来を啓く人』が地域を活性化させ、札幌のさらなる発展、未来の創造に寄与する人材を育成する。

(2) 求められる資質・能力

本研究では、5つの分野に重点を置いた実践的な教育プログラムを通して、次の能力を基盤とした『マネジメント能力』の育成を図る。

令和2年11月11日

- ・ビジネスマナー・コミュニケーション能力 ・協調性・協働性 ・リーダーシップ
- ・企画力・創造力 ・顧客満足実現能力 ・ビジネス探究能力 ・会計情報提供・活用能力
- ・情報処理・活用能力

そのために、今年度は以下の取組を行う。

- ア. 課題を見出し、未来を創造するために、現状を知りマネジメント能力の基盤を身に付ける力の育成（前年度同様に1年生を対象とした取組）
- イ. 未来を創造するために、前年度身に付けた知識や技術を基に、次年度実施する取組を考え、マネジメント能力に必要となる様々な能力を相互に結びつける力の育成（前年度同様に2年生及び一部の1年生を対象とした取組）
- ウ. これまでの学習や体験により身に付けた能力や人とのつながりを活用し、マネジメント能力を利用して、新たな価値を創り出す力の育成（3年生を対象とした取組）
- エ. これまでの学習プログラムの成果を普及させる取組

（3）学習プログラムの開発

ア. 課題を見出し、未来を創造するために、現状を知りマネジメント能力の基盤を身に付ける力の育成（昨年度より継続実施の取組：1年生対象）

（ア）「協調性・協働性」・「企画力・創造力」・「顧客満足実現能力」・「ビジネス探究能力」の育成 【観光分野の取組・MICE 分野の取組・起業家分野・地域ビジネス分野の取組】

「本物を見る、本物を知る」～ 地域の現状を知り、アイデアを起こす

① 概要

- ・「5つの分野」の取組を始める1年生を対象に、1年次に実施した取組を今年度も継続し、講話やフィールドワークなどを通して得られる課題について、グループ・ディスカッションや発表を行い、各プログラムの基礎的・基本的な知識を習得するとともに理解を深める。
- ・プログラムごとに、今後必要となるアイデアの創出技法、アイデアをプランにまとめる企画力・創造力を身に付け、さらには、自分の意見を述べることはもとより、他人の意見を尊重した上で、グループで協力し取組を実施する意識や態度を身に付けながら協調性・協働性を育成する。
- ・それぞれの課題から創出するアイデアについて、ビジネスの視点での捉え方やビジネスを探究する意識の向上を図る。
- ・フィールドワーク終了後には、見学先の担当者とのコミュニケーションを図り、さらに顧客満足やホスピタリティについても考えるきっかけとし、次の段階で行う観光プランの作成やMICEビジネスにおけるイベントプランの作成の際に必要な顧客満足実現能力を身に付ける。

② 実施時期

それぞれの時期に実施する。

【観光分野】6月下旬（9時間）

【MICE 分野】6月上旬（バス研修1日・事前事後学習5時間）

【地域ビジネス分野】11月の8時間

【起業家分野】12月の8.5時間（0.5時間はテスト返却後、事前アンケートを実施）

③ 教育課程上の位置付け

【観光分野及び地域ビジネス、起業家分野】

「ビジネス基礎」において対象生徒を1年生全員（240名）として実施

【MICE分野】

「ビジネス基礎」、「地理A」（地理・歴史）、「コミュニケーション英語Ⅰ」及び「英語会話」（外国語）において対象生徒を1年生全員（240名）として実施

④ 具体の学習プログラム

- a. 【観光分野】では、年度当初に地元札幌についての知識や意識についてのアンケートを実施し、取組前の状況を確認した後、大学で観光についての先進的な研究をされている講師から観光に関する講話を受ける。
- ・それにより、観光の概要、地域インバウンドの現状や訪日外国人の観光に対する動向、さらに札幌市における観光の取組事例など、観光に関する基礎・基本となる知識を習得するとともに、札幌の現状についての理解を深め、札幌が目指すべき将来像を知る。
- b. 【MICE分野】では、観光について道内における先進的な取組地域の見学と「地域の現状や取組内容について」の講話、さらにMICE施設の見学（バス研修）と札幌市のMICE担当者による「MICEの基礎的・基本的知識と札幌の現状について」の講話を行い、本校の観光・MICE学習に生かす。
- ・その後、外国人観光客が訪れる宿泊施設を訪問し、施設の責任者による講話やインタビューを行い、さらに観光地域フィールドワークや外国人への観光動向調査を基に、顧客満足やホスピタリティについて考え、理解を深める。
 - ・これらの取組により、コミュニケーションの基礎・基本や自ら積極的に発信する力、顧客満足実現能力を身に付ける。
- c. 【地域ビジネス分野】では、実際に地域と取り組んだビジネスの事例を紹介する講義から、地域の課題や取組をビジネスの視点でどのように捉えるか、ビジネスを探究する意識付けを行う。
- ・講演で紹介された地域振興事例などを基に、クラス内でアイデアを創出し、地域振興策を作成、発表する。その際に利用するアイデア創出技法についても学ぶ。
 - ・これらの取組により、地域産業を活用し、地域に根差したビジネスの新たな方向性を探り、新しいビジネスにつなげる能力を育成する。
- d. 【起業家分野】では、学習の初めに、起業意識についての事前アンケート調査を実施し、取組前の状況を確認した後、起業に関する専門家を講師に招いた講演を行い、起業意識の向上を図るとともに、講演で設定された人材面や資金面などの条件をもとに、起業アイデア創出と発表を行う。
- ・起業に必要な経営組織、資金調達、雇用などの企業活動の基礎について学習した後、ベンチャービジネスの講演を行うことでさらに理解を深める。
 - ・各自の起業案をもとにグループを編成し、アイデア創出技法を用いてグループ毎の起業案へと収束するプロセスにより、自分の意見発表と他者の発表から問題点や参考になる点について互いに意見を出し合い、より価値のあるアイデアにしていくことを学ぶ。
 - ・事前・事後のアンケートを行い、起業についての意識の向上の度合いを把握するとともに、学習の振り返りレポートにより取組のまとめを行う。

⑤ 学習評価の方法

- ・各プログラムの知識については、レポート及び定期考査で評価を行う。
- ・フィールドワークに関する事前、当日、事後の取組状況については、ポートフォリオによる評価を行う。
- ・グループ・ディスカッションやプレゼンテーションについては、ルーブリックを利用した自己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べることができる度合いを基準とする）や他己評価（他の意見を尊重した意見を述べている度合いを基準とする）及び教員評価（両者の差異を基準とする）を行う。
- ・創出したアイデアについては、各クラスでコンテスト形式とすることにより、教員評価だけではなく、生徒の相互評価も行う。

(イ) 外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成 【国際交流分野の取組】

「国際観光都市としての札幌を知るⅠ」

～ 外国人観光客のおもてなしと国際観光都市推進プロジェクト

① 概要

- ・札幌で行われるイベントで外国人観光客を案内することを目標に、語学能力を高めることや外国の習慣・慣例を知ることにより、国際的なサービス能力やコミュニケーション能力を育成する。このことにより、グローバル人材を育成する一助とする。
- ・コミュニケーション能力の向上につながるプログラムを実施するとともに、国際都市としての札幌の状況をプレゼンテーションにまとめ、発表する過程から理解を深める。

② 実施時期

8月～翌年3月の24時間

③ 教育課程上の位置付け

「ビジネス基礎」において対象生徒を1年生全員（240名）として実施

「コミュニケーション英語Ⅰ」・「英語会話」（外国語）において対象生徒を1年生全員（240名）として実施

④ 具体の学習プログラム

外国人観光客への対応やMICEイベントでの対応がスムーズにできるよう外国語科と連携し、外国人との会話に用いる表現等についてのトレーニングを行い、語学力やコミュニケーション能力の向上を図る。さらに、ビジネス基礎の授業において、国際都市としての札幌の現状を調査・発表することにより理解を深める。

- ・講師を招いた「観光都市さっぽろ」についての講話を聞き、自らの考えについてのプレゼンテーションを行う。
- ・取組前後にアンケートによる意識調査を行い、生徒の国際都市札幌の状況についての理解度を把握し、取組状況や感想について、可能な限りHPに掲載するなど広報するとともに、関係機関や広く一般からもコメントを求め、生徒へのフィードバックと取組の改善を図る。

⑤ 学習評価の方法

- ・取組の前後において、外国人に対応する際の意識についての変化の度合いを測定する。
- ・外国人との会話については、トレーニング前後の語彙の変化量を測定し、パフォーマンス

評価を行う。

- ・プレゼンテーションは、ルーブリックを利用した自己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べる度合いを基準とする）や他己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べている度合いを基準とする）及び教員評価（例：両社の差異を基準とする）を行う。

(ウ) 取組の輪と視野を広げるための「コミュニケーション能力」の育成

【観光分野の取組・MICE 分野の取組・地域ビジネス分野の取組・国際交流分野の取組】

「これからの取組につなげる」～ 生徒国内及び海外研修

① 概要

- ・観光分野や MICE 分野等必要な知識について、最新の情報を入手し、今後の取組について発見した課題解決の参考とするため、代表生徒が大学や関係機関にて研修を行う。
- ・国際交流及び海外での取組を推進するために、海外の商業事情を調査し、研修に参加する代表生徒が、今後の取組における他の生徒への橋渡し役となることにより、他者とのコミュニケーション能力を育成する。

② 実施時期

- ・生徒国内研修：8月の2泊3日
- ・生徒海外研修：12月の3泊4日（予定）

③ 教育課程上の位置付け

学校行事に位置付け、対象を1年生とし、参加希望生徒の中から選考する代表生徒の参加によりそれぞれ実施。

④ 具体の学習プログラム

観光や MICE 分野に関する大学や関係機関へ生徒を派遣し、最新の情報や取組について学習する。また、その研修内容についての発表を行う機会を設け、対象生徒全体に還元する。さらに派遣生徒は、それぞれの分野でその後の取組の中心的役割を担う。

- ・アンケート調査を実施し、取組の前後での意識の変化を把握する。
- ・各クラスから参加希望生徒を募り、選出する。
- ・生徒国内研修では、大学や関係官庁を中心に、各分野の最新の動向や問題点の講義やフィールドワークなどによる研修を行う。
- ・生徒海外研修では、学習プログラムの開発【イ．（オ）「海外の国・地域へ札幌の売り込み」】をテーマとして行う海外研修（2年生対象）に同行し、海外における商業の実際について調査を行う。
- ・国内・国外ともに研修終了後に、報告会を開催し、参加生徒からの報告を学年全員が聞くことにより今後の取組に生かす。
- ・取組状況や感想について、可能な限りHPに掲載するなど広報するとともに、関係機関や広く一般からもコメントを求め、生徒へのフィードバックと取組の改善を図る。

⑤ 学習評価（効果測定）の方法

- ・取組の前後における生徒の意識変化の度合いを測定する。

※ 代表者のみが参加するプログラムとしていることから、これらの学習評価を教師の指導の評価とし、必要に応じて改善を図るためのものとする。

(エ) 「会計情報・活用能力」・「情報処理・活用能力」・「ビジネスマナー」（を使える能

力)の育成

【各分野(共通的な基礎)の取組】

「ビジネスの基礎を身に付ける」～ビジネスに必要な技能の習得

① 概要

- ・「ビジネス基礎」の学習内容の深化を図り、実習等を通じて、ビジネスを行うための基礎的・基本的な技能を身に付ける。
- ・実際の企業のデータを利用し、より実務に即したビジネス計算をさせることによって、マネジメントに必要な会計情報提供・活用能力の基礎・基本を身に付ける。
- ・今後の取組で必要となる新しいビジネスを考える上で必要な情報を選択し、分析する力やそこから課題を発見し、主体的に対応する能力の育成を図る。
- ・イベントを企画運営する組織との対応に活用するため、電話対応や来訪の対応など、場面に合わせた活用ができるよう実習を行う。

② 実施時期

9月～11月の10時間程度

③ 教育課程上の位置付け

「ビジネス基礎」において対象生徒を1学年全員(240名)として実施

④ 具体の学習プログラム

ビジネスを行うために必要な基礎的・基本的な技能を身に付けることを目的として、1年次に実施した教育プログラムのうち、「ビジネスに関する計算の基礎」・「情報の取捨選択をする」・「実際のビジネスで使ってみる」について実施する。

⑤ 学習評価の方法

- ・各プログラムの知識・技能については定期考査・小テストで評価を行う。
- ・課題に対し、適切かつ正しい情報を使えたか、ループリックを利用した自己評価及び教員評価によって評価を行う。
- ・ビジネスマナーについては、評価基準表によるパフォーマンス評価を行う。

イ. 未来を創造するために、前年度身に付けた知識や技術を基に、次年度実施する取組を考え、マネジメント能力に必要な様々な能力を相互に結びつける力の育成(2年生及び一部の1年生を対象として行う取組)

(ア)「顧客満足実現能力」・「情報処理・活用能力」の育成

【観光分野の取組】

「札幌の魅力を伝える観光とは」～観光客が求める新たな観光プランの作成

① 概要

- ・札幌の新たな魅力を伝える観光プランの作成を通じて、顧客満足を実現するために必要な能力とは何かを体験的に学ぶ。
- ・顧客に魅力を伝える取組を通じて、情報の適切な取り扱い方法やメディア戦略の実際など情報を主体的に活用する能力の育成を図る。

② 実施時期

6月～7月の12時間

③ 教育課程上の位置付け

「マーケティング」において対象生徒を2年生全員（240名）として実施
「広告と販売促進」におけるメディア戦略について対象生徒を科目選択者として実施

④ 具体の学習プログラム

第1学年で行ったプログラム「地元を知る講話」及び「国内・海外研修」から得られた結果を参考に、札幌を題材とした観光プランを作成する取組から、顧客を満足させる商品・サービスとは何か、さらにその魅力を伝えるために必要となる戦略を知る。

- ・アンケート調査により、取組の前後における生徒の意識の変化を把握する。
- ・「マーケティング」において、学習プログラム実施に必要な顧客満足のマーケティング、消費者行動などの理解を深める学習を行う。
- ・専門家による講話を実施し、観光プラン作成の際に必要な基礎的な事項を知る機会とする。
- ・講話の振り返りとして、設定した題材（人的資源や物的資源、財務的資源）の条件をもとに、観光プランのアイデア案を生徒一人一人が作成する。
- ・アイデア案によりグループを編成し、それぞれ発表の内容についてのグループ・ディスカッションを行い、アイデアを収束する。顧客価値を明らかにすることにより、より顧客の満足につながるアイデアになることに気付かせる。
- ・グループごとにアイデア案を発表し、クラス内でコンテストを行う。このことにより、全体で意識を共有する。
- ・「広告と販売促進」において、販売促進の目的や広告の目的、立案及び各自の観光プランの広告やCM作成、パンフレットの作成などメディア戦略の基礎について体験し、メディアや情報資源の活用の仕方を主体的に判断しながら、顧客満足につながる情報伝達の方法についても学習する。
- ・学習プログラムのまとめとして、感想や理解したことなどのレポートを作成することにより、取組全体を振り返る。
- ・取組状況やアイデア、感想について、可能な限りHPに掲載するなど広報するとともに、関係機関や広く一般からもコメントを求め、生徒へのフィードバックと取組の改善を図る。

⑤ 学習評価の方法

- ・マーケティング等の知識については、レポート及び定期考査を活用して評価を行う。
- ・グループ・ディスカッションやプレゼンテーションについては、ルーブリックを利用した自己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べることができる度合いを基準とする）や他己評価（他の意見を尊重した意見を述べている度合いを基準とする）及び教員評価（両者の差異を基準とする）を行う。

(イ) 「企画力・創造力」・「ビジネス探究能力」の育成 【地域ビジネス分野の取組】

「地域ビジネスを体験する」～札幌における新たなビジネスの振興Ⅱ

① 概要

- ・地元札幌に密着した先進的な取組を進めている企業と連携し、その経営の歩みを研究することにより、ビジネスとしての新たな可能性を見出すとともに、地域の特性や個性をビジネスに生かしながら地元産業の活性化に貢献できる人材を育成する。

令和2年11月11日

- ・「地域ビジネスの意義や先進的な取組」についての講話から実際に地域と取り組んだ事例を把握し、地域の課題や取組をビジネスの視点でどのように捉えるか、地域に根差した取組を実際に提案させ、内容の深化を図る。
 - ・これらの取組により、地域の産業を活用し、地域に根差したビジネスの新たな方向性を探り、新しいビジネスにつなげる能力を育成する。
- ② 実施時期及び期間
10月～11月の4時間
- ③ 教育課程上の位置付け
「マーケティング」において対象生徒を2年生全員（240名）として実施
- ④ 具体の学習プログラム
各地で先進的に行われている地域ビジネスの取組を参考に、さらに地元札幌に密着して取組を進めている企業の専門家を講師に招き、具体的な地域連携策について講話を実施し、地域ビジネス実施のための基礎的・基本的な知識を理解するとともに、実際に地域連携を図ることを目的としたビジネスの提案を行い、内容の深化とこれからの可能性を見出す。
- ・学習の初めに、アンケート調査により地域ビジネスについての知識や意識を把握する。
 - ・1年次の取組や今年度の講演を基に、資源を有効に利用するビジネスアイデアについてアイデア創出技法を用いてクラス内でアイデア創出を行う。
 - ・学習を振り返り、創出されたアイデアから、札幌の地域ビジネスとして新たに実現可能と考えることについてレポートをまとめるとともに、生徒の意識についての高まり度合いを事後アンケート調査で把握する。
 - ・取組状況やアイデア、感想について、可能な限りHPに掲載するなど広報を実施するとともに、関係機関や広く一般からもコメントを求め、生徒へのフィードバックと取組の改善を図る。
- ⑤ 学習評価の方法
- ・講話内容をまとめたレポートによって、「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など、観点別評価を行う。
 - ・取組の前後における意識の変化をアンケート調査で測定する。

(ウ) 「協調性・協働性」・「ビジネス探究能力」・「会計情報提供・活用能力」の育成

【起業家分野の取組】

「クラウドファンディングを利用した起業挑戦」

～ ビジネスアイデアから起業へ。起業の実際を体験し知る。

- ① 概要
- ・1年次「ビジネス基礎」で学習したビジネスについての知識や起業家の取組をもとに、ビジネスアイデアを起業案にするために必要な各資源のマネジメントについて理解する。
 - ・販売計画や仕入計画、資金・人材調達、企業法務など起業についてのノウハウについては、起業についての専門家を通じて理解する。

 - ・自ら作成したビジネスアイデアから起業案にするための一連の方策について、取組を通

じて理解させるとともに、自らの力で起業案を作成する際に不可欠な考察力や分析力を身に付ける。

② 実施時期及び期間

12月の8時間

③ 教育課程上の位置付け

「マーケティング」において対象生徒を2年生全員（240名）として実施

④ 具体の学習プログラム

「ビジネス基礎」で学んだ知識をもとに、今年度実施する講演を通じて、起業の方法について理解する。また、クラウドファンディングの学習や起業マネジメントの実習を通じて、ビジネスアイデアを起業につなげる方法について、体験的に学ぶ。さらに、次年度にそれぞれのグループでの実施を予定している起業挑戦に向けた意欲を高める。

- ・学習の初めに、生徒の起業意識についての事前アンケート調査を行う。
- ・「マーケティング」において、起業に必要な販売計画・仕入計画などの人的資源・物的資源等の活用や資金計画などの財務的資源の活用について学習する。
- ・授業で学んだことをさらに深めるため、起業についての専門家もしくは研修を受けた本校教員により講義を行い、資金調達のためのクラウドファンディングの方法や各資源のマネジメントについては、専門家による講義・実習を行う。
- ・各自が作成したビジネスアイデアを基に、グループごとにアイデアを収束した起業案を作成する。その際は、起業という目的のもとに互いに出した意見を尊重し、グループで協力して取組を実施する意識や態度を身に付けられるよう配慮する。
- ・グループごとにクラウドファンディングを行う起業案を作成する際は、販売計画や仕入計画、資金計画などを立案し、さらにその計画を結びつけるマネジメントの学習の一助とする。
- ・グループごとに起業案を発表し、クラス内でコンテストを行う。また、改善点について講師から指摘を受けた内容を起業案にフィードバックする。このことにより、実現可能性の高い起業案作成を行う。
- ・学習の振り返りとして、体験の感想や身に付いたことをレポートとしてまとめる。さらに、事前・事後のアンケート調査を行い、起業に関する意識の高まりの度合いを把握する。
- ・取組状況やアイデアや感想について、可能な限りHPに掲載するなど広報するとともに、関係機関や広く一般からもコメントを求め、生徒へのフィードバックと改善を図る。

⑤ 学習評価の方法

- ・「マーケティング」で学んだ事項については、定期考査及び小テストにより評価を行う。
- ・起業案については、各クラスでのコンテスト形式とすることにより、教員評価だけではなく、生徒の相互評価も行う。
- ・グループ・ディスカッションやプレゼンテーションについては、ルーブリックを利用した自己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べるができる度合いを基準とする）や他己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べている度合いを基準とする）及び教員評価（例：両社の差異を基準とする）を行う。

(エ) 外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成 【国際交流分野の取組】

「国際観光都市としての札幌を知るⅡ」

～ 外国人観光客のおもてなしと国際観光都市推進プロジェクト

① 概要

- 札幌で行われるイベントに来場する外国人観光客を案内することを目標に、語学能力を高めることや外国の習慣・慣例を知ることにより、国際的なサービス能力やコミュニケーション能力を育成する。このことにより、グローバル人材を育成する一助とする。
- 外国人の観光客のマナーや異文化間の問題点について、現状を知るとともに、外国人観光客への対応を体験する。

② 実施時期

7月～11月の18時間

③ 教育課程上の位置付け

「マーケティング」及び「コミュニケーション英語Ⅱ」（外国語）において対象生徒を2年生全員（240名）として実施

「異文化理解」において対象生徒を2年生科目選択者として実施

④ 具体の学習プログラム

今後実施する外国人観光客への対応やMICEイベントでの対応がスムーズにできるよう外国語科と連携し、語学やコミュニケーションについてトレーニングを行う。（「コミュニケーション英語Ⅱ」・「異文化理解」）さらに、国際都市としての札幌の現状を調査・発表することにより理解を深める。（「マーケティング」）

- 取組前後にアンケートによる意識調査を行い、国際都市としての札幌の理解度を把握する。
- 「外国人観光客のマナーとおもてなしの実情」についての講話を行い、その内容を参考にして、見学旅行や札幌で行われるイベントの場面を活用して、全員が外国人観光客との対応について体験する。
- 取組状況や感想については、可能な限りHPに掲載するなど広報するとともに、関係機関や広く一般からもコメントを求め、生徒へのフィードバックと取組の改善を図る。

⑤ 学習評価の方法

- 取組の前後における外国人に correspond する際の意識の変化を測定する。
- 外国人との会話については、トレーニング前後の語彙の変化量を測定し、パフォーマンス評価を行う。

(オ) 「コミュニケーション能力」・「企画力・創造力」・「顧客満足実現能力」の育成

【MICE分野の取組・地域ビジネス分野の取組・国際交流分野の取組】

「地域の魅力を伝える」～海外の国・地域へ札幌の売り込み

① 概要

- 海外の国・地域において、地元札幌の魅力を伝えることを目標に、グローバルな視点での資質・能力を育てる。
- 地元札幌の魅力を商業の視点で発掘し、それを海外の国・地域で宣伝する企画を考えるこ

とにより、企画力・創造力を育てる。

- ・昨年度の取組および海外研修で調査した海外事情を参考に、海外の国・地域にあった企画を考えることにより、顧客満足実現能力を育てる。
- ・実際に海外の国・地域において、宣伝を行うことにより国際的なサービス能力やコミュニケーション能力を育成する。

② 実施時期

12月に3泊4日で実施予定

※ 生徒海外研修【学習プログラム ア（ウ）】と同時に行う。

③ 教育課程上の位置付け

学校行事に位置付け、対象を2年生とし、参加希望生徒の中から選考する代表生徒の参加により実施

④ 具体の学習プログラム

札幌市が海外の国・地域で行う経済交流（商談会や展示会、イベント等）に同行し、地元地域の魅力を伝える諸活動（観光・MICEや物販・サービス、貿易等）に携わることにより、グローバルな視点での商業活動における資質・能力を育てる。

- ・アンケート調査を実施し、取組の前後における意識の変化を把握する。
- ・各クラスから参加希望生徒（各ユニットで中心的に取組をする生徒）を募り、選出する。
- ・地元地域の魅力を伝える諸活動のアイデアを創出し、関係各機関にプレゼンテーションを行い、実際に実現可能性の高い取組を絞り込む。
- ・宣伝に必要な知識・技術、語学やコミュニケーションについては、別途授業や事前指導等で学習を行う。
- ・プログラム終了後に、学年全員を対象に参加報告会を行い、今後の取組に生かす。
- ・取組状況や感想については、可能な限りHPに掲載するなど広報するとともに、関係機関や広く一般からもコメントを求め、生徒へのフィードバックと取組の改善を図る。

⑤ 学習評価の方法

- ・取組の前後での意識の変化をアンケート調査で測定する。

※ この教育プログラムが代表者によるものであるため、これらの学習評価を教師の指導の評価とし、必要に応じて改善をするためのものとする。

(カ) 「リーダーシップ」・「プロジェクトを管理する能力」の育成

【MICE分野・国際交流分野の取組】

「イベントを動かす」～札幌で行われるイベント運営の実際

① 概要

- ・観光、MICEや国際交流の各プログラムで学んだ事項を活用して、札幌で行われるイベントを企画運営する組織の協力によりイベントのプロジェクト管理などの運営側として必要な事項を体験的に学ぶ。
- ・札幌で行われるイベントに企画・運営スタッフとして参加し、イベントを実施する際に必要となる能力・技術について体験的に学ぶ。
- ・生徒の代表として、これらの取組を行い、それを全体に伝えることにより、来年度以降の

イベントをリーダーとして率いる力（リーダーシップ）を育成する。

② 実施時期

9月（イベント実施時期）

③ 教育課程上の位置付け

「ビジネス基礎」において対象生徒を1年生・「マーケティング」において対象生徒を2年生として学習し、学校行事（インターンシップ）を実際の体験場面として、代表生徒（数十名）により実施

④ 具体の学習プログラム

マネジメント能力の育成に必要な各資源の結び付け方を理解し、身に付けるために、代表生徒が現在札幌で開催しているイベントに参加し、企画、運営、販売の体験をする。

- ・アンケート調査を実施し、取組の前後での意識が変化を把握する。
- ・各クラスから、MICE分野の取組における中心となる生徒を募り、選出する。
- ・参加するイベントでは、実施するために必要な資源や運営をする上で身に付けるべき能力、技術について、実際にイベントに携わっている方の協力により、体験的に学ぶ。
- ・イベントを実施する際に必要なプロジェクトの遂行方法や行程管理などのプロジェクト管理についても体験的に学ぶ。
- ・取組終了後、学年全員を対象とした報告会を行い、次年度のイベント企画に生かす。
- ・取組状況や感想については、可能な限りHPに掲載するなど広報するとともに、関係機関や広く一般からもコメントを求め、生徒へのフィードバックと取組の改善を図る。

⑤ 学習評価の方法

- ・取組の前後でどのくらい意識が変わったのかをアンケート調査で測定する。

※ この教育プログラムが代表者によるものであるため、これらの学習評価を教師の指導の評価とし、必要に応じて改善をするためのものとする。

ウ. これまでの学習や体験により身に付けた能力や人とのつながりを利用し、マネジメント能力を活用して、新たな価値を創り出す力の育成（3年生を対象とした取組）

(ア) 「マネジメント能力」の育成

【各分野を総合する取組】

「資源を適切に活用するマネジメントとは」～ ビジネスマネジメントの基礎を知る

① 概要

- ・各資源を適切に結びつけるビジネスマネジメントの概要や、ビジネスの場面を想定した上でマネジメントに必要な知識を理解するとともに、ビジネスを実施する際のプロジェクトを管理するための方策を理解する。
- ・適切なマネジメントの重要性について、起業の社会的責任や企業倫理との関連から捉るため、具体的な事例から理解する。
- ・これらの取組により、今後「課題研究」においてマネジメント能力を利用した取組を生徒自ら行うことができる資質・能力を育成する。

② 実施時期

6月の5時間（講演2時間・事前事後指導3時間）

③ 教育課程上の位置付け

「総合実践」において対象生徒を3年生全員（240名）として実施

④ 具体の学習プログラム

生徒自らビジネスの展開を題材としたマネジメントに関する具体的な課題を設定し、科学的な根拠に基づいてビジネスアイデアなどを考察し、経営資源を効果的に活用した事業計画を立案して提案などを行う学習活動を「課題研究」において実施する。

その活動に必要なマネジメントの概要について、具体的なビジネスの事例を基盤とした講演を基に理解し、活用できる能力を育成する。

- ・アンケート調査により、今まで「ビジネス基礎」や「マーケティング」において学んだマネジメントに関連する知識を確認するとともに、取組の前後における生徒の意識の変化を把握する。
 - ・企業において、マネジメントを担当する方や大学などでマネジメントを研究する専門家等による講演を実施し、ビジネスマネジメントに必要な基礎的な知識を身に付ける機会とする。
 - ・講演においては、起業の実際の事例を取り上げ、人的資源、物的資源等の経営資源を適切に活用するマネジメントの概要やプロジェクト管理、企業の社会的責任や企業倫理などの企業の秩序と責任について取り上げる。
 - ・学習プログラムのまとめとして、感想や理解したことなどのレポートを作成することにより、取組全体を振り返る。
 - ・取組状況やアイデア、感想について、可能な限りHPに掲載するなど広報するとともに、関係機関や広く一般からもコメントを求め、生徒へのフィードバックと取組の改善を図る。
- ※ なお、この学習プログラムで得た知識を活用する場面は、【（3）学習プログラムの開発ウ.（ウ）】の学習プログラムにおいて実施する。

⑤ 学習評価の方法

- ・講話内容をまとめたレポートによって、「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など観点別評価を行う。
- ・取組の前後における意識の変化をアンケート調査で測定する。

(イ) 「マネジメント能力」を発揮してビジネスを担う能力の育成（「プロジェクトを管理する能力」・「企画力・創造力」・「リーダーシップ」・「会計情報提供・活用能力」及び「情報処理・活用能力」の育成）
【各分野を総合する取組】

「ビジネスゲームでマネジメントを体験しよう！」～ ビジネスマネジメントを体験する

① 概要

- ・資金の調達及び運用、商品の開発・販売、決算など株式会社の経営などを体験できるビジネスゲームを活用することにより、ビジネスマネジメントを模擬的に実施する。
- ・ビジネスゲームにおいて、会社経営の役割分担について責任をもって遂行することにより、プロジェクトを管理する能力やリーダーシップを育成する。さらに、商品のアイデアを考えることにより企画力・創造力を育成する。
- ・ビジネスゲームにおいて、事業計画書や決算、株主総会の開催等の体験から、会計情報提供・活用能力及び情報処理・活用能力を育成する。

- ・これらの取組により、今後「課題研究」においてマネジメント能力を活用した取組を生徒自ら行うことができる資質・能力を育成する。

② 実施時期

7月～9月の21時間

③ 教育課程上の位置付け

「総合実践」において対象生徒を3年生全員（240名）として実施

④ 具体の学習プログラム

証券取引所に上場しているお菓子会社の新規事業を立案する株式会社のビジネスゲームを活用し、経営資源を効果的に活用した事業計画の立案、営業活動におけるプロジェクト管理、株主総会での報告など経営マネジメントを模擬的に体験する活動を行うことにより、マネジメント能力を活用してビジネスを担う力を育成する。

- ・各クラス4～5名のグループを作り、社長、財務担当、製作担当、営業担当の役割分担を行い、お菓子会社の新規事業を立ち上げる。
- ・開発する商品の概要や会社の売り上げ目標、配当割合などを記した事業計画を立案する。
- ・事業計画を発表し、商品開発のための資金を集める。（同時に投資家の立場で他社の投資も行う。）
- ・集めた資金を基に新商品を開発する。（商品のパッケージと販売用のポスターの作成）
- ・作成物を展示し、消費者（他クラス生徒）に評価をしてもらい、販売を行う。（投票されたポイントが販売個数となる。）
- ・販売個数を基に売上を集計し、利益や株価、配当金額を計算の上、株主総会を開催し、営業成績や事業の反省を行う。（同時に投資家の立場で投資の結果も計算する。）
- ・学習プログラムのまとめとして、感想や理解したことなどのレポートを作成することにより、取組全体を振り返る。

⑤ 学習評価の方法

- ・各場面で提出を求めるワークシートやビジネスゲームの結果（資産の運用、商品評価、決算状況）については、「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など観点別評価を行う。
- ・取組の前後における意識の変化をアンケート調査で測定する。
- ・グループ・ディスカッションやプレゼンテーションについては、ルーブリックを利用した自己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べることができる度合いを基準とする）や他己評価（他の意見を尊重した意見を述べている度合いを基準とする）及び教員評価（両者の差異を基準とする）を行う。

(ウ) 「マネジメント能力」を活用してビジネスを探究する能力の育成（「ビジネス探究能力」

- ・「プロジェクトを管理する能力」・「企画力・創造力」及び「リーダーシップ」の育成

【各分野を総合する取組】

「ビジネスマネジメントをやってみよう！」～ 未来のビジネスの創造と展開

① 概要

- ・これまでの教育プログラムの総まとめとして、それまでに身に付けた資質・能力や商業の

各分野の学んだ知識・技術、様々な人とのつながりを基に、ビジネスに関する課題を発見し、その方策をマネジメントしながら、解決策を探究する活動を行う。

- ・研究成果については、本校が開催する「SPH成果発表会（課題研究発表会）」において、地域の方や産業界の関係者、教育関係者などを招き、広く活動を発信する。
- ・これらの取組により、ビジネスを通じ、地元札幌の地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を高めるといふ本校の教育プログラムの目的を達することを旨とする。

② 実施時期

通年（4月～3月）週4単位時間

③ 教育課程上の位置付け

「課題研究」において対象生徒を3年生全員（240名）として実施

④ 具体の学習プログラム

これまで3年間の教育プログラムの学習や体験を通じて身に付けた資質・能力や人とのつながりを活用し、地元札幌に貢献できる活動を生徒自ら考え、探究し、発表・提言する活動を実施する。

- ・各クラスの個人またはグループにおいて、通年実施する。
- ・研究の方法を理解するため、共通課題を設定し、課題解決のためのデータ分析法やレポート作成方法、発表の方法を身に付ける。
- ・各研究分野に分かれて、研究テーマや研究計画を立案する。想定される課題例は以下の通りである。

【 調査・研究・実験 】

- ・観光分野 … 観光プランの実施、観光客増加への取組
- ・MICE分野 … イベントを活用した取組、イベント主催、イベントの経済効果測定
- ・国際交流分野 … 国際交流ボランティア活動、外国語を活用した取組、インバウンド対応（おもてなし）
- ・地域ビジネス分野 … 地域イベントを活用した取組、地域経済の振興、地域ビジネスとしてのスポーツビジネスに参加、スポカル
- ・起業家教育分野 … クラウドファンディングによる起業、新しいビジネスの創造

【 作品制作 】

- ・観光分野 … 動画制作、商品開発（地域情報誌・ご当地グルメ）、web ページ作成
- ・国際交流分野 … インバウンド向け動画制作、web ページ作成
- ・起業家教育分野 … 学校オリジナル商品考案

- ・研究に関連する情報を収集し、その情報の本質などを理解するために専門家や地域への聞き取りなどを行うインタビュー調査を生徒自ら企画し実施する。
- ・調査した情報を基に、科学的な根拠に基づいて創造的に解決策を探究する。
- ・さらに課題の本質を把握し、課題解決に向けたアイデア創出など解決策を深めていく活動を協働的に行う。
- ・マネジメントについては、【（3）学習プログラムの開発ウ。（ア）及び（イ）】の学習プログラムで身に付けた知識・技能を活用した方策を考える。

- ・発表の方法を決定し、効果的な発表となるための方策を検討し、実施する。
- ・研究成果については、本校が開催する「SPH成果発表会（課題研究発表会）」において、これまでの成果をプレゼンテーションやポスターセッション等で発表する。その際は、地域の方や産業界の関係者、教育関係者などを招き、広く活動を発信する。
- ・学習プログラムのまとめとして、レポート等の研究のまとめを作成し、取組全体を振り返るとともに、生涯にわたって自発的、創造的に学習に取り組めることを認識させる。
- ・1年間の研究について生徒が実施した研究方法や成果を検討し、次年度実施の「課題研究」における教育プログラムに活かす。（教員の取組）

⑤ 学習評価の方法

- ・各場面で提出を求めるワークシートについては、「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など観点別評価を行う。
- ・インタビュー調査については、評価基準表によるパフォーマンス評価を行う。
- ・フィールドワークに関する取組状況については、ポートフォリオによる評価を行う。
- ・グループ・ディスカッションやプレゼンテーションについては、ルーブリックを利用した自己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べるができる度合いを基準とする）や他己評価（他の意見を尊重した意見を述べている度合いを基準とする）及び教員評価（両者の差異を基準とする）を行う。

- (エ) 「顧客満足実現能力」を活用して観光ビジネスを展開するために必要な能力の育成（「顧客満足実現能力」・「ビジネスマナー・コミュニケーション能力」・「協調性・協働性」の育成）

【観光分野の取組・MICE分野の取組】

「地元札幌の魅力をビジネスで伝える」～ 地域の活性化を担う観光ビジネスとは

① 概要

- ・観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するため、基礎的・基本的な知識と技能を習得させるとともに、観光ビジネスに必要な資質・能力を育成する。
- ・これまでの観光・MICE分野についての取組において身に付けた資質・能力や様々な人とのつながりを基に行う実践的な活動を通じて、観光ビジネスを主体的かつ協働的に取り組むために必要な顧客満足実現能力やコミュニケーション能力等を養う。

② 実施時期

通年（4月～3月）週3単位時間

③ 教育課程上の位置付け

学校設定科目「観光・MICE入門」において対象生徒を3年生科目選択者として実施

④ 具体の学習プログラム

これまで実施した観光分野やMICE分野の教育プログラムを基に、さらに体系的・系統的な理解するため、通年にわたり以下の内容で授業を行う。

【主な科目内容】

1. 観光とは（観光の基礎）… 観光に関する基礎的な知識について理解する
2. 様々な観光ビジネス … 様々なツーリズムの形態について事例を基に理解する
3. 観光のマーケティング … 観光ビジネスにおけるマーケティングについて理解する

- 4. 観光におけるケーススタディ
… 国内外の観光の動向についてケーススタディを基に理解する
- 5. MICEとは(MICEの基礎) … MICEに関する基礎的な知識について理解する
- 6. 札幌における観光・MICE
… 地元札幌における観光やMICEの特徴について理解する
- 7. 観光・MICE実習 … 観光・MICE分野についての調査や実習など他科目(課題研究等)と連携して実施する

⑤ 学習評価の方法

- ・観光ビジネスに関する知識については、レポート及び定期考査を活用して評価を行う。
- ・ケーススタディについての取組状況については、ポートフォリオによる評価を行う。
- ・観光・MICE実習については、必要に応じて、評価基準表によるパフォーマンス評価を行う。

(オ) 外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成 【国際交流分野の取組】

「国際観光都市としての札幌を知るⅢ」

～ 外国人観光客のおもてなしと国際観光都市推進プロジェクト

① 概要

- ・札幌で外国人観光客を案内することを目標に、語学能力を高めることや、観光ボランティアについての状況を知ることにより、国際的なサービス能力やコミュニケーション能力を育成する。
- ・外国人観光客に札幌観光の魅力を伝える取組を通じて、情報を適切に取り扱い、主体的に活用する能力を育成する。

② 実施時期

5月の3時間、及び 9～10月の12時間 計2回

③ 教育課程上の位置付け

商業科「課題研究」において対象生徒を3年生全員(240名)として実施

外国語科「英語探究」において対象生徒を3年生科目選択者として実施

④ 具体の学習プログラム

- ・オリジナルプランを元に外国人を実際に案内し、国際的なサービス能力やコミュニケーション能力を育成する。
- ・外国人観光客へ地元のよさを満喫してもらう観光プランを作成し、関係機関よりアドバイスをいただく。
- ・札幌で行われている外国人を対象とした案内ボランティアを見学し、実施状況を学ぶ。
- ・外国人を対象とした案内ボランティアによる講話を聞き、札幌での外国人観光客の状況やおもてなしのノウハウを学ぶ。
- ・取組についてプレゼンテーションにまとめ、プランの紹介、おもてなし体験のレポートなどをクラス内発表する。
- ・取組の前後にアンケートによる意識調査を行い、外国人観光客へのおもてなしに関する理解度を調べる。

- ・取組状況や感想について、公開できる範囲でHPなどに載せ、関係機関などからコメントを求める。

⑤ 学習評価の方法

- ・外国人観光客へのおもてなしに対する意識の違いを取組の前後でどのくらい変わったのかを測定する。
- ・作成した観光プランやプレゼンテーションは、ループブックを利用した自己評価や他己評価及び教員評価を行う。

エ. これまでの学習プログラムの成果を分析・検証し、普及させる取組

3年間の学習プログラムのまとめとして、本校が主催する「SPH成果発表会」において成果について発表や提案を行い、全体としての成果を分析・検証するとともに、本事業を総括的に評価する。その結果は、研究成果報告書やHPにて公開するとともに、関係機関に配布し、コメントを求める。これらの研究成果については、札幌市教育委員会が主催する「市立高校プレゼンテーション大会」や「市立高校合同説明会」等において報告して全体で共有する。なお、その際には、教育関係者や企業などの外部連携機関にとどまらず、広く市民に公開して研究成果の普及を図る。また、北海道高等学校教育研究会や各種教育研究会などでも成果を発表し、情報発信を行う。さらに、本研究開発終了後において、開発した学習プログラムを広く普及するための方策を検討する。

(4) 研究成果の普及

上記、(3) 学習プログラムの開発エを参照のこと。

5. 実施体制

(1) 研究担当者

本校の研究開発は、5つの分野である『観光』、『MICE』、『国際交流』、『地域ビジネス』及び『起業家教育』について、ユニットを構築する。全教職員はいずれかのユニットに所属する。各ユニットは、具体的な取組内容の企画を行い、各教科、学年団、各分掌等がSPH事業を実施する際の支援を行う。

氏名	職名	役割分担・担当教科
鈴木 恵一	校長	統括
堀野 智宏	教頭	連絡調整
羽山 慶一	事務長	財務担当責任者、予算管理・経理事務
添田 裕一	教諭	研究開発事業統括、商業科
石山 俊央	教諭	ユニット統括、観光ユニット責任者、商業科
石山 和弥	教諭	地域ビジネスユニット担当、商業科
斉藤 光明	教諭	MICEユニット担当、地歴公民科
濱谷 信一	教諭	MICEユニット担当、総務部長、数学科
三谷 俊介	教諭	MICEユニット責任者、商業科
高松 真哉	教諭	国際交流ユニット担当、英語科

西岡 哲哉	教諭	地域ビジネスユニット責任者、 学年主任 、保健体育科
成田 和弘	教諭	起業家教育ユニット責任者、 進路指導部長 、商業科
西田 典博	教諭	起業家教育ユニット担当、商業科
羽澤 直敏	教諭	広報担当、 学年主任 、商業科
稲津 正巳	教諭	国際交流ユニット担当、商業科
渡邊 里佳	教諭	国際交流ユニット責任者、英語科
嶋守 徹	教諭	地域ビジネスユニット担当、商業科
小笠原理恵	学校事務職員	財務担当、予算管理・経理事務
五十嵐咲季	学校事務職員	財務担当、予算管理・経理事務
すべての教員	教諭	すべての教科

(2) 研究推進委員会

S P H運営指導委員会及び札幌市教育委員会の指導・助言を受け、各取組の企画立案や連携先機関（大学・学校・教育機関、企業等）との調整を図り、各ユニットにおける事業の実施を推進する。本校の従来の組織である未来商学科推進委員会がS P H研究推進委員会として企画・調整を行う。

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
鈴木 恵一	市立札幌啓北商業高等学校 校長	全体統括
堀野 智宏	市立札幌啓北商業高等学校 教頭	連絡調整
羽山 慶一	市立札幌啓北商業高等学校 事務長	財務担当責任者、予算管理・経理事務
添田 裕一	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	取組企画立案統括、渉外担当
石山 俊央	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「ビジネスマネジメントをやってみよう」企画立案担当 「札幌の魅力伝える観光とは」企画立案担当
石山 和弥	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「地域ビジネスを体験する」企画立案担当
斉藤 光明	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「イベントを動かす」企画立案担当
濱谷 信一	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「これからの取組につなげる」企画立案担当
三谷 俊介	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「地域の魅力を伝える」企画立案担当 「地元札幌の魅力をビジネスで伝える」企画立案担当
高松 真哉	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「国際都市としての札幌を知るⅠ・Ⅱ・Ⅲ」運営担当 「地域の魅力を伝える」企画立案担当
西岡 哲哉	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「地域ビジネスを体験する」運営担当 「本物を見る、本物を知る」運営担当
成田 和弘	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「クラウドファンディングを利用した起業挑戦」企画立案担当 「ビジネスゲームでマネジメントを体験」企画立案担当
西田 典博	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「クラウドファンディングを利用した起業挑戦」企画立案担当 「ビジネスの基礎を身に付ける」企画立案担当

羽澤 直敏	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	取組の記録及び広報担当(H P等) 「学習プログラムの成果の分析・検証・普及」企画立案担当
稲津 正巳	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「国際都市としての札幌を知るⅠ・Ⅱ・Ⅲ」運営担当 「地域の魅力を伝える」運営担当
渡邊 里佳	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「国際都市としての札幌を知るⅠ・Ⅱ・Ⅲ」企画立案担当 「地域の魅力を伝える」運営担当
嶋守 徹	市立札幌啓北商業高等学校 教諭	「資源を適切に活用するマネジメントとは」企画立案担当 「本物を見る、本物を知る」企画立案担当
小笠原理恵	市立札幌啓北商業高等学校 学校事務職員	財務担当、予算管理・経理事務
五十嵐咲季	市立札幌啓北商業高等学校 学校事務職員	財務担当、予算管理・経理事務

(3) 運営指導委員会

本校のSPH事業について、第三者の立場からそれぞれの専門分野について、指導助言をしていただくとともに、来年度以降の各教育プログラムについて助言をいただく。

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
岡部 善平 (委員長)	小樽商科大学 商学部 教授	教育プログラム全般の指導・助言、教育カリキュラム分野
宍戸 学 (副委員長)	日本大学 国際関係学部 国際総合政策学科 教授	「札幌の魅力を伝える観光とは」指導・助言、観光分野
石川 義浩	札幌市経済観光局 観光・MICE推進部長	「イベントを動かす」指導・助言、MICE分野
木村 良彦	公益財団法人 札幌国際プラザ 事務局長	「国際都市としての札幌を知る」指導・助言、国際交流分野
尾崎 正則	前 公益財団法人日本オリンピック委員会 表彰部門部長 理事	「地域ビジネスを体験する」指導・助言、地域ビジネス分野
伊藤 博之	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 代表取締役	「クラウドファンディングを利用した起業挑戦」指導・助言、起業家教育分野
沼田 和之	株式会社北海道銀行 地域振興公務部 部長	「マネジメント能力の育成」指導・助言、経営マネジメント分野
佐藤 圭一	札幌市教育委員会 学校教育部 教育課程担当課長	推進状況についての指導・助言
牧野 弘幸	札幌市教育委員会 学校教育部 教育課程担当課 高等学校担当係長(指導主事)	推進状況についての指導・助言

(4) 札幌市教育委員会における支援体制

本研究事業においては、札幌市教育委員会と札幌啓北商業高校とが一体となって実践研究を推進するために、札幌市教育委員会学校教育部教育課程担当課長及び指導主事の2名が、SPH運営指導委員として加わるとともに、運営指導委員会とは別に毎月1回をめぐり、学校訪問を実施し推進状況について実地調査を行い、直接的な支援・助言を行う。

また、本市が設置する唯一の専門学科である当該校に対しては、これまでも就職指導加配教員を1名配置しているが、引き続きこの体制を維持し、本研究開発を通じて生徒一人一人の社会的・職業的な自立を積極的に支援していく。

さらに、本事業における取組の成果が、改訂後の学習指導要領において示される育成すべき資質・能力を踏まえた効果的な学びの推進に活かされるよう、市立高校全教員が参加する教科別研究協議会の商業部会において、指導主事連絡協議会等で得られた教育課程に関する最新の

動向を併せて周知するとともに、当該校以外に商業に関する科目を開講している市立札幌大通高等学校の教員との研修を通じて、本事業の成果を取り入れ授業力向上を支援していく。

(5) 校内における体制図

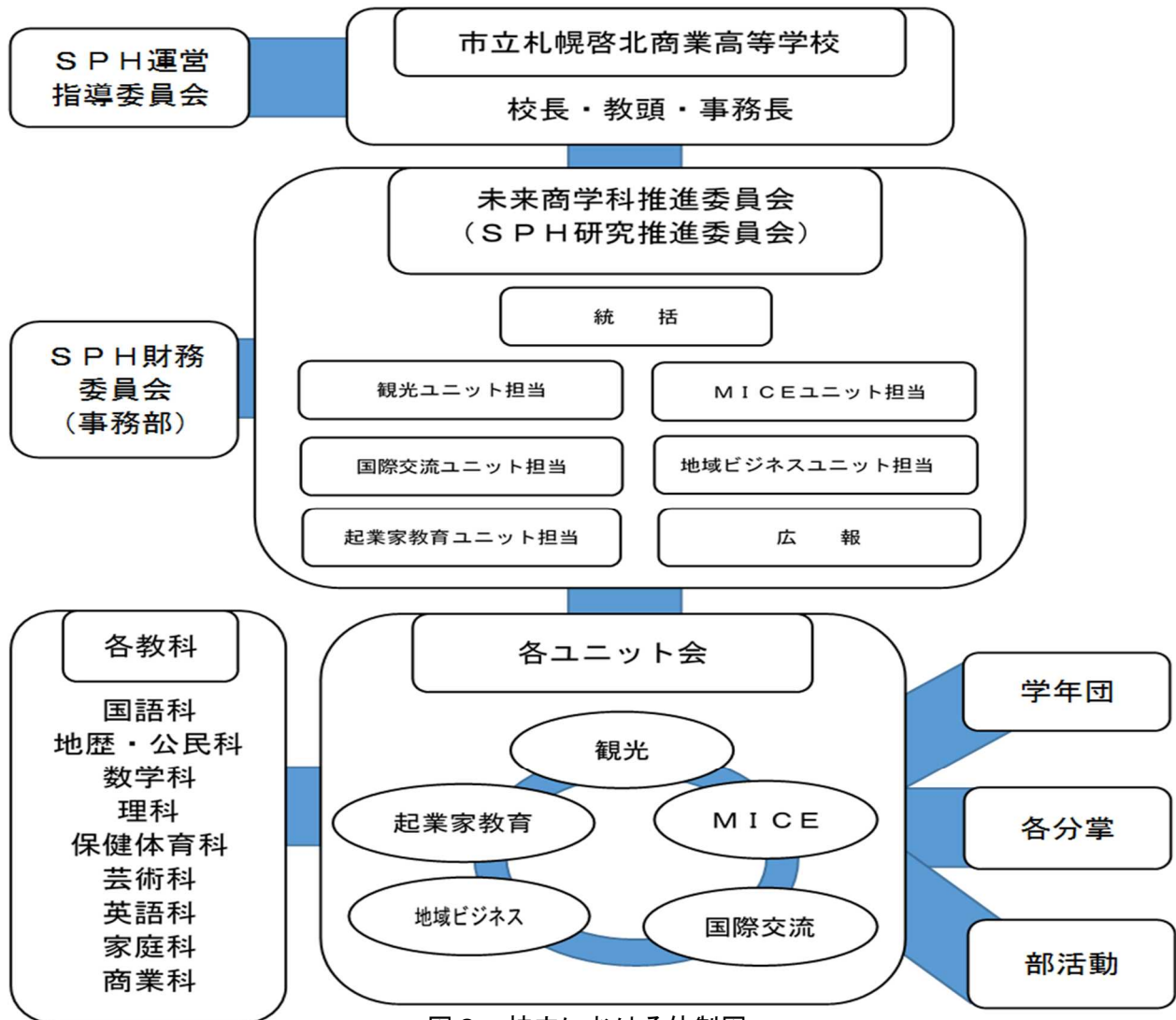


図2 校内における体制図

6. 研究内容別実施時期

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ア 本物を見る、本物を知る			○				○	○	○			
国際観光都市としての札幌を知る I					○	○						○

	これからの取組につなげる					○				○			
	ビジネスの基礎を学ぶ						○	○	○				
イ	札幌の魅力を伝える観光とは			○	○								
	地域ビジネスを体験する							○	○				
	クラウドファンディングを利用した起業挑戦									○			
	国際観光都市としての札幌を知るⅡ				○	○	○	○	○				
	地域の魅力を伝える									○			
	イベントを動かす						○						
ウ	資源を適切に活用するマネジメントとは			○									
	ビジネスゲームでマネジメントを体験しよう				○	○	○						
	ビジネスマネジメントをやってみよう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地元札幌の魅力をビジネスで伝える	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	国際観光都市としての札幌を知るⅢ		○				○	○					
エ	これまでの学習プログラムの成果を分析・検証し、普及させる取組	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
特になし				

8. 知的財産権の帰属

令和2年11月11日

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費 別紙1に記載

III 事業連絡窓口等 別紙2に記載